

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	2024年12月10日まで（2000年3月31日設定）	
運用方針	RUSSELL/NOMURA Large Cap Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンドを通じて、主としてわが国の大型・中型株式の中から、収益の成長力が市場平均に比べて高いと判断される銘柄を厳選して投資します。株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。	
主要運用対象	ベビードファンド	日本株グロース・ファンド・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビードファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

### 日本株セレクト・オープン“日本新世紀” 日本株グロース・ファンド



第41期（決算日：2020年6月10日）



#### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「日本株グロース・ファンド」は、去る6月10日に第41期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。  
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



### 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用  
 フリーダイヤル **0120-151034**  
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、  
 土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			RUSSELL/NOMURA Large Cap Growth		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税込 分配	み 金	期 騰 落	中 率	インデックス			
	円	円		%		%	%	%	百万円
37期(2018年6月11日)	8,878	0		0.5	180.91	△ 2.1	99.0	—	639
38期(2018年12月10日)	7,549	0		△15.0	160.82	△11.1	98.3	—	519
39期(2019年6月10日)	7,547	0		△ 0.0	162.48	1.0	97.6	—	492
40期(2019年12月10日)	8,428	0		11.7	183.90	13.2	97.9	—	531
41期(2020年6月10日)	8,786	0		4.2	187.92	2.2	93.6	—	533

(注) RUSSELL/NOMURA Large Cap Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額上位約85%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスのうち高修正PBR銘柄により構成されるインデックスがRUSSELL/NOMURA Large Cap Growthインデックスです。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		RUSSELL/NOMURA Large Cap Growth		株式組入比率	株式先物比率
		騰落	率	インデックス	騰落率		
(期首)	円		%		%	%	%
2019年12月10日	8,428	—		183.90	—	97.9	—
12月末	8,595		2.0	184.53	0.3	97.2	—
2020年1月末	8,321		△ 1.3	183.18	△ 0.4	98.2	—
2月末	7,585		△10.0	164.58	△10.5	98.6	—
3月末	7,314		△13.2	160.32	△12.8	96.4	—
4月末	7,882		△ 6.5	169.04	△ 8.1	93.1	—
5月末	8,527		1.2	182.11	△ 1.0	93.8	—
(期末)							
2020年6月10日	8,786		4.2	187.92	2.2	93.6	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

# 運用経過

第41期：2019年12月11日～2020年6月10日

## ▶ 当期中の基準価額等の推移について

### 基準価額等の推移



第41期首	8,428円
第41期末	8,786円
既払分配金	0円
騰落率	4.2%

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

**基準価額の動き**

基準価額は期首に比べ4.2%の上昇となりました。

**ベンチマークとの差異**

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（2.2%）を2.0%上回りました。

**基準価額の主な変動要因****上昇要因**

日本を含む各国の積極的な金融政策や財政政策に加え、欧米で新型コロナウイルスの感染拡大鈍化、経済活動再開の動きが出始めたことなどを背景に国内株式市況が上昇したことや、個別銘柄の上昇などが、基準価額の上昇要因となりました。

**下落要因**

新型コロナウイルス拡大による世界経済への悪影響が懸念されたことなどを背景に国内株式市況が一時的に下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

**銘柄要因**

上位5銘柄・・・第一三共、ソフトバンクグループ、キーエンス、中外製薬、エムスリー

下位5銘柄・・・SCREENホールディングス、大成建設、京成電鉄、日本電産、アサヒグループホールディングス

第41期：2019年12月11日～2020年6月10日

## ▶ 投資環境について

### ▶ 国内株式市況

#### 国内株式市況は上昇しました。

期首から2020年2月上旬にかけては、一進一退で推移した後、2月中旬からは新型コロナウイルスが世界的に拡大し、消費や世界経済へ与える影響が懸念されたことなどから下落しました。

3月下旬から期末にかけては、日本を含む各国が積極的な金融政策や財政政策を打ち出したこと、欧米で新型コロナウイルスの感染拡大が鈍化して徐々に経済活動再開の動きが出始めたこと、日本においても緊急事態宣言が解除されたことなどを受け、国内株式市況は上昇しました。

## ▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

### ▶ 日本株グロース・ファンド

日本株グロース・ファンド・マザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しております。株式の実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい概ね95%以上の高位水準を維持しました。

成長シナリオの変化、定性評価の修正、新規投資銘柄候補との相対比較等を勘案し、組入銘柄の入れ替えを適宜行いました。

組入銘柄数は概ね56～59銘柄程度で推移させました。

### ▶ 日本株グロース・ファンド・マザーファンド

個別銘柄の選別においては、収益の成長力が市場平均と比べて高いと判断される銘柄の中から、主力事業で優位性を持ち、ニュービジネスに対する取り組み姿勢等に勝る銘柄を厳選し投資を行いました。

企業のデジタル関連投資拡大に伴う業績成長を期待して「日本ユニシス」などを新規に買い付けました。一方、経済環境の悪化に伴い業績の悪化が懸念される「東レ」などを全株売却しました。

期首・期末時点の比較では5銘柄を新規に買い付け、7銘柄を全株売却しました。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

### ▶ 日本株グロース・ファンド

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（2.2%）を2.0%上回りました。

#### マザーファンド保有以外の要因

信託報酬等のコストがマイナス要因となりました。

#### マザーファンド保有による要因

##### プラス要因

**業種配分要因：**陸運業や不動産業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

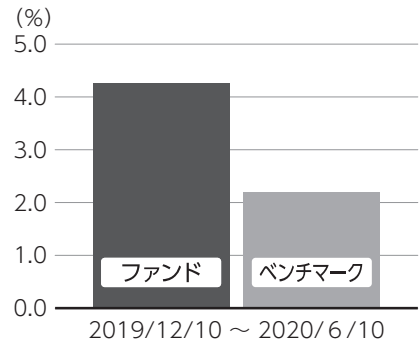
**銘柄選択要因：**「ソフトバンクグループ」や「エムスリー」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

##### マイナス要因

**業種配分要因：**金属製品や建設業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

**銘柄選択要因：**「SCREENホールディングス」や「資生堂」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

### 基準価額（ベビーファンド）と ベンチマークの対比（騰落率）



## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

### 分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第41期 2019年12月11日～2020年6月10日
当期分配金（対基準価額比率）	－（－％）
当期の収益	－
当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額	4,244

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

### ▶ 日本株グロース・ファンド

日本株グロース・ファンド・マザーファンド 受益証券を高位に組み入れる方針です。

株式の実質組入比率についても高位を維持する方針です。

### ▶ 日本株グロース・ファンド・マザーファンド

マネジメント力、バリュエーション、中長期的な成長や収益力改善のためにどのような施策に取り組んでいるのかなどを精査し、強い競争力があり、中長期的な成長期待が持てる企業を中心に銘柄選別を行っていく方針です。

当面の株式市況は、新型コロナウイルスによる世界

経済への悪影響が長引くリスクや再び感染拡大が起こる第二波のリスクなどが懸念されます。しかし、徐々に経済活動は正常化へ動き出しており、様々な国が対策を次々と打ち出していることから次第に問題は沈静化していくと考えます。経済環境への悪影響は相応に想定されますが、長期にわたる景気腰折れのシナリオまでは考えておりません。新型肺炎問題が収束に向かうに伴い個人や企業の活動状況が正常化され、各国の経済対策も徐々に効果が出てくると考えることから、中期的に見れば再び堅調な経済環境に戻ると想定します。引き続き、株価のバリュエーションなどに留意し企業調査を通じて銘柄の厳選を継続する所存です。



2019年12月11日～2020年6月10日

## 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	66	0.826	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
( 投 信 会 社 )	(31)	(0.386)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(31)	(0.386)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 4 )	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	3	0.041	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
( 株 式 )	( 3 )	(0.041)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	69	0.868	

期中の平均基準価額は、8,036円です。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

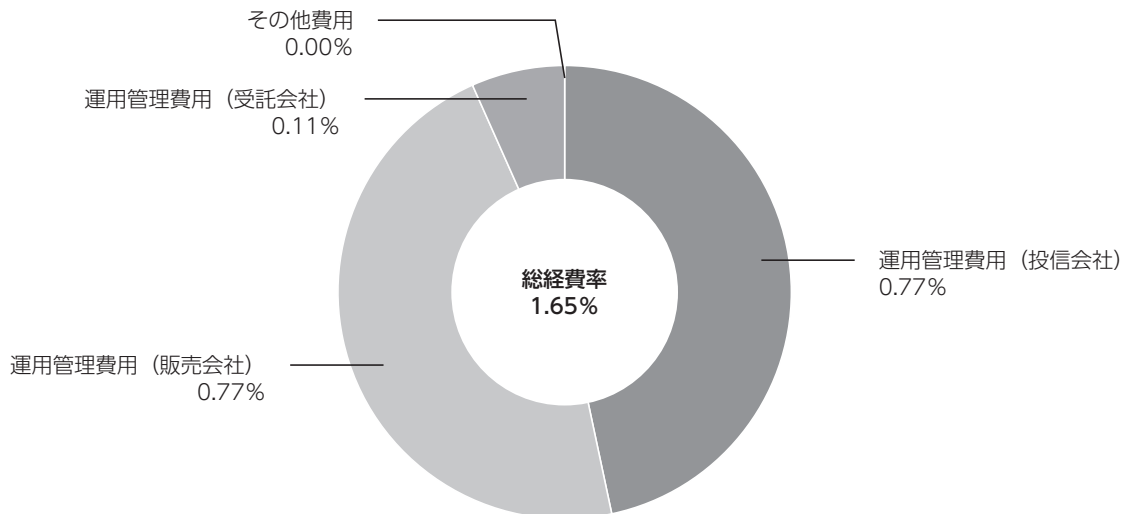
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

### ■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.65%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

(2019年12月11日～2020年6月10日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
日本株グロース・ファンド・マザーファンド	千口 5,480	千円 6,016	千口 47,444	千円 50,556

## ○株式売買比率

(2019年12月11日～2020年6月10日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	日本株グロース・ファンド・マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	3,953,037千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	7,075,686千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2019年12月11日～2020年6月10日)

## 利害関係人との取引状況

&lt;日本株グロース・ファンド&gt;

該当事項はございません。

&lt;日本株グロース・ファンド・マザーファンド&gt;

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	1,548	30	1.9%	2,404	349	14.5%

平均保有割合 6.8%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

### 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	202千円
うち利害関係人への支払額 (B)	19千円
(B) / (A)	9.8%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUF G証券です。

### ○組入資産の明細

(2020年6月10日現在)

#### 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
日本株グロース・ファンド・マザーファンド	千口 459,376	千口 417,413	千円 510,079

### ○投資信託財産の構成

(2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
日本株グロース・ファンド・マザーファンド	千円 510,079	% 94.6
コール・ローン等、その他	29,079	5.4
投資信託財産総額	539,158	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	539,158,084
コール・ローン等	27,879,427
日本株グロース・ファンド・マザーファンド(評価額)	510,079,111
未収入金	1,199,546
(B) 負債	5,178,009
未払解約金	1,071,498
未払信託報酬	4,099,426
未払利息	37
その他未払費用	7,048
(C) 純資産総額(A-B)	533,980,075
元本	607,776,045
次期繰越損益金	△ 73,795,970
(D) 受益権総口数	607,776,045口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,786円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 630,704,408円  
 期中追加設定元本額 5,216,522円  
 期中一部解約元本額 28,144,885円  
 また、1口当たり純資産額は、期末0.8786円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は73,795,970円です。

## ③分配金の計算過程

項 目	2019年12月11日～ 2020年6月10日
費用控除後の配当等収益額	3,144,758円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	－円
収益調整金額	135,026,779円
分配準備積立金額	119,802,873円
当ファンドの分配対象収益額	257,974,410円
1万口当たり収益分配対象額	4,244円
1万口当たり分配金額	－円
収益分配金金額	－円

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほか、当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

## ○損益の状況 (2019年12月11日～2020年6月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 2,272
受取利息	32
支払利息	△ 2,304
(B) 有価証券売買損益	25,980,006
売買益	30,948,048
売買損	△ 4,968,042
(C) 信託報酬等	△ 4,106,474
(D) 当期損益金(A+B+C)	21,871,260
(E) 前期繰越損益金	91,917,068
(F) 追加信託差損益金	△187,584,298
(配当等相当額)	(135,022,574)
(売買損益相当額)	(△322,606,872)
(G) 計(D+E+F)	△ 73,795,970
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△ 73,795,970
追加信託差損益金	△187,584,298
(配当等相当額)	(135,026,779)
(売買損益相当額)	(△322,611,077)
分配準備積立金	122,947,631
繰越損益金	△ 9,159,303

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

# 日本株グロース・ファンド・マザーファンド

## 《第40期》決算日2020年6月10日

[計算期間：2019年12月11日～2020年6月10日]

「日本株グロース・ファンド・マザーファンド」は、6月10日に第40期の決算を行いました。  
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第40期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	中長期的な信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行います。主としてわが国の大型・中型株式の中から、収益の成長力が市場平均に比べて高いと判断される銘柄を厳選して投資することを基本とします。RUSSELL/NOMURA Large Cap Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。株式の組入比率は、原則として高位を維持します。
主要運用対象	わが国の株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

### ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		RUSSELL/NOMURA Large Cap Growth		株組入比率	株先物比率	純資産額
	円	騰落率	インデックス	騰落率			
36期(2018年6月11日)	11,866	1.3%	180.91	△2.1%	98.9%	—	百万円 10,105
37期(2018年12月10日)	10,166	△14.3%	160.82	△11.1%	98.5%	—	7,839
38期(2019年6月10日)	10,252	0.8%	162.48	1.0%	97.9%	—	7,294
39期(2019年12月10日)	11,544	12.6%	183.90	13.2%	98.1%	—	8,048
40期(2020年6月10日)	12,220	5.9%	187.92	2.2%	98.0%	—	7,478

(注) RUSSELL/NOMURA Large Cap Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、時価総額上位約85%の銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA Large Capインデックスのうち高修正PBR銘柄により構成されるインデックスがRUSSELL/NOMURA Large Cap Growthインデックスです。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Frank Russell Companyと野村証券株式会社が作成している株価指数で、当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は両社に帰属します。なお、両社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

(注) 「株先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Large Cap Growth		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	率	インデックス	騰 落 率		
(期 首) 2019年12月10日	円	%		%	%	%
	11,544	—	183.90	—	98.1	—
12月末	11,785	2.1	184.53	0.3	97.4	—
2020年1月末	11,424	△ 1.0	183.18	△ 0.4	98.4	—
2月末	10,426	△ 9.7	164.58	△ 10.5	98.8	—
3月末	10,066	△ 12.8	160.32	△ 12.8	96.6	—
4月末	10,887	△ 5.7	169.04	△ 8.1	97.3	—
5月末	11,836	2.5	182.11	△ 1.0	98.2	—
(期 末) 2020年6月10日	12,220	5.9	187.92	2.2	98.0	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

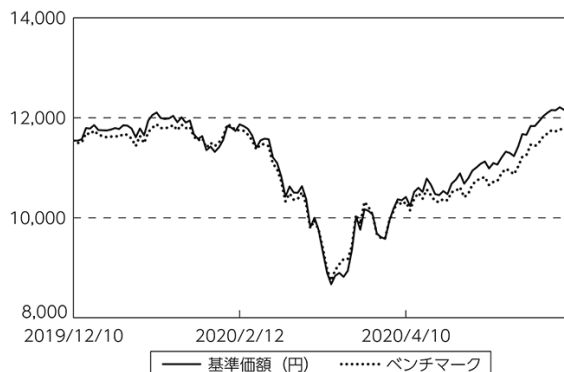
## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ5.9%の上昇となりました。

## ◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(2.2%)を3.7%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●基準価額の主な変動要因

## (上昇要因)

日本を含む各国の積極的な金融政策や財政政策に加え、欧米で新型コロナウイルスの感染拡大鈍化、経済活動再開の動きが出始めたことなどを背景に国内株式市況が上昇したことや、個別銘柄の上昇などが、基準価額の上昇要因となりました。

## (下落要因)

新型コロナウイルス拡大による世界経済への悪影響が懸念されたことなどを背景に国内株式市況が一時的に下落したことが、基準価額の下落要因となりました。

## (銘柄要因)

上位5銘柄…「第一三共」、「ソフトバンクグループ」、「キーエンス」、「中外製薬」、「エムスリー」  
下位5銘柄…「SCREENホールディングス」、「大成建設」、「京成電鉄」、「日本電産」、「アサヒグループホールディングス」

## ●投資環境について

## ◎国内株式市況

- ・国内株式市況は上昇しました。
- ・期首から2020年2月上旬にかけては、一進一退で推移した後、2月中旬からは新型コロナウイルスが世界的に拡大し、消費や世界経済へ与える影響が懸念されたことなどから下落しました。
- ・3月下旬から期末にかけては、日本を含む各国が積極的な金融政策や財政政策を打ち出したこと、欧米で新型コロナウイルスの感染拡大が鈍化して徐々に経済活動再開の動きが出始めたこと、日本においても緊急事態宣言が解除されたことなどを受け、国内株式市況は上昇しました。

## ●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、収益の成長力が市場平均と比べて高いと判断される銘柄の中から、主力事業で優位性を持ち、ニュービジネスに対する取り組み姿勢等に勝る銘柄を厳選し投資を行いました。
- ・成長シナリオの変化、定性評価の修正、新規投資銘柄候補との相対比較等を勘案し、組入銘柄の入れ替えを適宜行いました。
- ・組入銘柄数は概ね56～59銘柄程度で推移させました。企業のデジタル関連投資拡大に伴う業績成長を期待して「日本ユニシス」などを新規に買い付けました。一方、経済環境の悪化に伴い業績の悪化が懸念される「東レ」などを全株売却しました。
- ・期首・期末時点の比較では5銘柄を新規に買い付け、7銘柄を全株売却しました。

- 当該投資信託のベンチマークとの差異について  
ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(2.2%)を3.7%上回りました。

## (プラス要因)

- ・業種配分要因：陸運業や不動産業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

- ・銘柄選択要因：「ソフトバンクグループ」や「エムスリー」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

## (マイナス要因)

- ・業種配分要因：金属製品や建設業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。
- ・銘柄選択要因：「SCREENホールディングス」や「資生堂」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

## ◎今後の運用方針

- ・マネジメント力、バリュエーション、中長期的な成長や収益力改善のためにどのような施策に取り組んでいるのかなどを精査し、強い競争力があり、中長期的な成長期待が持てる企業を中心に銘柄選別を行っていく方針です。
- ・当面の株式市況は、新型コロナウイルスによる世界経済への悪影響が長引くリスクや再び感染拡大が起こる第二波のリスクなどが懸念されます。しかし、徐々に経済活動は正常化へ動き出しており、様々な国が対策を次々と打ち出していることから次第に問題は沈静化していくと考えます。経済環境への悪影響は相応に想定されますが、長期にわたる景気腰折れのシナリオまでは考えておりません。新型コロナウイルス問題が収束に向かうに伴い個人や企業の活動状況が正常化され、各国の経済対策も徐々に効果が出てくると考えることから、中期的に見れば再び堅調な経済環境に戻ると想定します。引き続き、株価のバリュエーションなどに留意し企業調査を通じて銘柄の厳選を継続する所存です。



## ○1万口当たりの費用明細

(2019年12月11日～2020年6月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 5 (5)	% 0.041 (0.041)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	5	0.041	
期中の平均基準価額は、11,064円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2019年12月11日～2020年6月10日)

## 株式

国 内	上場	買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
		千株	千円	千株	千円
		659	1,548,098	792	2,404,939
		(62)	( )		

(注) 金額は受渡代金。

(注) ( )内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2019年12月11日～2020年6月10日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	3,953,037千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	7,075,686千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.55

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2019年12月11日～2020年6月10日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 1,548	百万円 30	1.9	百万円 2,404	百万円 349	14.5

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	2,986千円
うち利害関係人への支払額 (B)	293千円
(B) / (A)	9.8%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○組入資産の明細

(2020年6月10日現在)

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>建設業 (1.3%)</b>				
コムシスホールディングス	19.8	10.4	31,564	
大成建設	26.9	15.2	61,484	
<b>食料品 (4.4%)</b>				
ヤクルト本社	5.5	4.9	33,761	
アサヒグループホールディングス	21.2	19.1	84,345	
ニチレイ	47.3	42.7	129,594	
日清食品ホールディングス	9.6	8.7	76,995	
<b>繊維製品 (—%)</b>				
東レ	127.1	—	—	
<b>化学 (4.8%)</b>				
住友化学	—	198	70,488	
資生堂	35.1	38.9	280,974	
<b>医薬品 (9.5%)</b>				
塩野義製薬	17.2	—	—	
日本新薬	5	8.4	75,936	
中外製薬	11	9.9	156,519	
第一三共	47.5	37.7	338,093	
大塚ホールディングス	12.7	8.5	42,236	
ベプチドリーム	13	16.5	82,087	
<b>非鉄金属 (2.1%)</b>				
住友金属鉱山	32.7	47.6	151,653	
<b>金属製品 (3.4%)</b>				
SUMCO	148.1	149	250,767	
<b>機械 (7.0%)</b>				
SMC	4	3.6	201,204	
クボタ	10.9	—	—	
ダイキン工業	6.1	5.5	92,180	
ダイフク	18.7	16.8	148,848	
THK	22	24.5	72,495	
<b>電気機器 (30.2%)</b>				
イビデン	—	41.3	122,619	
日立製作所	13.4	—	—	
富士電機	29	26.2	80,041	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
安川電機	38.2	40	155,800	
日本電産	12.8	31.5	220,500	
アンリツ	54.6	39.8	95,639	
ソニー	23.7	26.2	196,395	
横河電機	42.9	—	—	
アドバンテスト	21	20.6	125,042	
キーエンス	10.2	8.4	376,152	
レーザーテック	—	9.7	93,993	
カシオ計算機	48.1	57	112,974	
太陽誘電	27.9	18.1	61,811	
村田製作所	33.2	22.7	147,731	
小糸製作所	12	10.4	50,180	
S C R E E Nホールディングス	16.9	15.2	83,448	
東京エレクトロン	8.8	12	286,560	
<b>輸送用機器 (3.5%)</b>				
トヨタ自動車	15.1	11.5	81,581	
本田技研工業	62.7	56.6	172,007	
<b>精密機器 (4.8%)</b>				
テルモ	46	—	—	
島津製作所	26.3	—	—	
オリンパス	—	55.4	106,423	
HOYA	11.6	14.1	141,705	
朝日インテック	51.6	34.4	105,436	
<b>その他製品 (3.7%)</b>				
ヤマハ	13.5	12.2	68,930	
任天堂	5.7	4.5	204,030	
<b>陸運業 (0.7%)</b>				
京成電鉄	27	13.5	49,815	
<b>情報・通信業 (10.9%)</b>				
T I S	24.2	70.7	159,711	
Zホールディングス	398.3	324.5	146,998	
日本ユニシス	—	37.4	126,599	
KDDI	44.4	49.8	158,911	
ソフトバンクグループ	100.6	38.8	207,774	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
小売業 (7.1%)				
セブン&アイ・ホールディングス	22.3	9.7		37,723
良品計画	31.6	61.2		97,124
パン・パシフィック・インターナショナルホ	53.4	48.2		106,425
丸井グループ	27.4	45.4		97,110
ニトリホールディングス	4.3	2		38,640
ファーストリテイリング	2.4	2.2		145,288

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
サービス業 (6.6%)				
エムスリー	59.9	33.8		152,269
オリエンタルランド	6.1	5.5		85,057
リクルートホールディングス	40.5	61.5		248,952
合 計	株 数・金 額	2,109	2,037	7,328,627
	銘柄数<比率>	58	56	<98.0%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。  
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

## ○投資信託財産の構成

(2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	7,328,627	97.9
コール・ローン等、その他	157,570	2.1
投資信託財産総額	7,486,197	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年6月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	7,486,197,583
コール・ローン等	126,787,533
株式(評価額)	7,328,627,700
未収配当金	30,782,350
(B) 負債	8,027,433
未払解約金	8,027,262
未払利息	171
(C) 純資産総額(A-B)	7,478,170,150
元本	6,119,412,761
次期繰越損益金	1,358,757,389
(D) 受益権総口数	6,119,412,761口
1万口当たり基準価額(C/D)	12,220円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 6,971,947,022円  
 期中追加設定元本額 324,516,764円  
 期中一部解約元本額 1,177,051,025円  
 また、1口当たり純資産額は、期末12,220円です。

## ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

<DC>日本株スタイル・ミックス・ファンド	5,352,212,187円
日本株グロース・ファンド	417,413,348円
日本株スタイル・ミックス・ファンド	291,834,676円
三菱UFJ 日本株スタイル・ミックス・ファンドF(適格機関投資家限定)	57,952,550円
合計	6,119,412,761円

## ○損益の状況 (2019年12月11日～2020年6月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	55,193,133
受取配当金	55,218,358
受取利息	545
その他収益金	790
支払利息	△ 26,560
(B) 有価証券売買損益	289,521,844
売買益	646,548,128
売買損	△ 357,026,284
(C) 当期損益金(A+B)	344,714,977
(D) 前期繰越損益金	1,076,357,442
(E) 追加信託差損益金	18,790,468
(F) 解約差損益金	△ 81,105,498
(G) 計(C+D+E+F)	1,358,757,389
次期繰越損益金(G)	1,358,757,389

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。